

【ねがいはましては】

令和3年6月25日

KYOWA SCHOOL

第367号

「寄り添う」

4月号でご紹介させていただいた女性受刑者の方々を取り上げたシリーズものの完結編が新聞に載っていました。

2009年、郵便不正事件で逮捕され、164日間、拘留所に勾留された元厚生労働省局長の村木厚子さんへのインタビューです。(現在、法務省の再犯防止推進計画等検討会委員。津田塾大学客員教授。)

受刑者になるかならないか、その分かれ目になる部分が「困難に寄り添ってくれる人がいるかどうかが決定的に大きい」と仰っています。現在村木さんは、一般社団法人「若草プロジェクト」の活動を初めて5年になるそうです。相談内容の多くが、家庭環境が不遇で親に頼れない場合、ひとりでがんばってしまうことが多い。でも、女性がひとりで社会で頑張ろうとすると風俗やクスリへの誘惑や畏が近づいてくるそうです。ですから困っている人に伴走して、背負っている荷物を一緒に抱える人や場所をどれだけ用意できるか。問われるのは社会の方だと断言します。

これをそのまま子どもたちの環境に置きかえてみると、しっかり当てはまってしまふものを感じます。日々、学校生活の中で競争に遭い、比べられ、いじめを味わいながら、家族を心配させないためにガマンにガマンを重ねながら学校へ通い続ける子は少なくないと思います。歳を重ね、あるときプツツと親との絆が断たれたとき、その子の人生は奈落へと落ちていくのかもしれませんが。そんな時、そばに誰かがいてくれたら……。

村木さんはインタビューの初めにまず語ったことが、「困っている人を取り残さないということですね。『自分を見てくれている人がいたら何度もここに来なかった』と話す受刑者が複数いました。」と、語っています。

現在、刑務所内には、ハローワークの職員が常駐し仕事を紹介しているそうです。素晴らしい取り組みだと思いました。

村木さんは続けます。「刑罰は刑法の根幹部分ですし、犯した罪の重さにもよるのですが、クスリに頼るしかない人生を送ってきた人に、ただやめなさいといって刑務作業ばかりさせても依存からの回復は難しい。クスリに頼らず生きていける方法を本人が見つけるのを、一緒に手伝ってあげることが本質的に重要だと思います。刑務所に入らせないようにすることが一番大事。たとえ恵まれない環境に育っても、支援の手が伸びて活躍できる。そうやって初めて女性活躍と言えらると思います。」

子どもたちの世界も全く同じだと感じます。子どもをひとりにさせないこと。学校でイヤなことに遭い、帰宅した我が子を見、そのことに全く気づかず、「宿題はやったの、まだ終わらないの。早くやりなさい。」「また成績が下がっちゃったの、いい加減になさい。」「ゲームばかりやってないで、たまには机に向かいなさい。」

この時点でお子さんは「ひとり」の状態になります。少なくとも家庭内では……。同じ境遇の中にある子が、たまたま外で出会います。そして仲間ができます。もうその子はひとりではありません。と、言いたいのですが、本質的にはひとりに変化はありません。なぜなら「いざ」というときに寄り添ってくれる人がとなりにいること。こころに深いキズを負い、どうにもやるせない状態になっているとき、そっとそばにいてくれる人がいるとき、それがひとりではない状態だと思います。

むしゃくしゃした気持を思い切り発散したところで、何の解決にもなっていないことに気がついたとき、さらに子どもたちの心は深い深い谷へと落ちていくのかもしれませんが。

テストで失敗し、うなだれて帰ってきたとき、順位が下がり不安いっぱいになったまま帰宅したとき、子は何を望んでいるのでしょうか。「きっとしかられる」「どうしよう」このような気持で帰宅するお子さんは、多いのかもしれませんが。こころに深手を負っているときに必要なもの……。

その時こそ必要なものが「母の愛情」だと思います。ことばなくそっと差し出す温かい飲み物で結構です。母として寄り添うことは『義務』なのではないでしょうか。

心配しているから叱る……。これはなかなかお子さんには通じにくいかもしれませんが。普段からお子さんとの間に100%の信頼が育まれていれば、ひょっとしたら響くことかもしれません。しかし、もし、お母さんの心のどこか片隅に小さな『欲』が宿っていたとしたら、お子さんからの信頼は届けられるとは思いません。

とかく流されがちな生き物……。人間。まわりがそうだから、わたしもそうする。この連鎖を十分に認識しつつ、お子さんを認めること。我が子は我が子の生き方がある。我が子には我が子らしさという大切なものがある。周りがそうだから私のところも……。というのはおかしい。

この地球上にたった一つしかない「家族」。

だからこそ個性をもって助け合い、どんな失敗があっても許し合い、支え合い、一緒に歩んであげることをお子さんに誓ってあげてください。

成功とは、ただひとつしかない 自分の一生をあなたらしく堂々と生き抜くこと ただそれだけである

クリストファー・モーリー